

①オニバスの育て方

■オニバスについて

池などに生える。1年で枯れてしまうが、かなり大きく成長する草。ハスに似ているが葉や茎にトゲがいっぱいあることから「オニバス」と名付けられた。

昔は、「さすがな京都」周辺の大きな池や沼にも生えていたが、今ではオニバスが生える大きな池は埋め立てられ、ほとんど見られなくなっている。



オニバスの葉と花

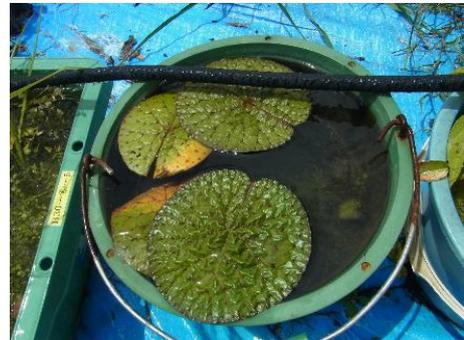
■オニバスの育て方

必要なもの

水：水道の水で大丈夫。水は土の上から 10～20cm あると良い。水が少なくなったら足して、水がなくなるようにしよう。

土：ホームセンターなどで売られている「荒木田土」やイネ用の土が良い。土の厚さは容器の底から 20～30cm あると良い。

容器：土が入り、水がためられれば何でも使える。大きいほどオニバスの葉も大きく育つ。バケツでも育つけど、葉は小さくなる。タライ（直径30cm以上）などがおすすめ。



バケツで育つオニバス

タネを植える・芽が出てくる（3～4月）

- ・ 陽がよくあたる所で育てよう。
- ・ タネを土の上に置いて、浮かんでこないように薄く土をかぶせよう。全部のタネからは芽が出ないからことが多いので、3粒を一つの容器に植えてOK。
- ・ 3月終わりから5月はじめごろに芽を出す。まず細い白い葉（右の写真）が伸びてくる。



オニバスのタネから出てきた芽

葉の形が変わりながら大きくなっていく（4～8月）

- ・ 芽が出てから、針のような葉→矢じり型の葉→スイレンのような葉→大きな丸い葉…と、葉の形が次々変わりながら大きくなっていく。オニバスの葉や茎にはとがったトゲがあるので、さわるときは注意しよう。



スイレンのような葉



丸い葉が出てきた



大きな丸い葉がいっぱい

花がさく（8～10月）

- ・ 8月から10月ごろまで花をつける。オニバスの花は花びらが開く花と花びらが開かずつぼみのままの花の2種類ある。花びらが開く花は珍しいので、見つけたらとてもラッキー！写真を撮って、オニバス里親プロジェクトのみんなに知らせよう。



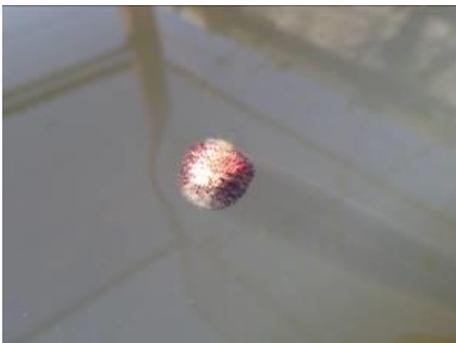
花びらが開く花



花びらが開かない花

タネができる・タネをとる（9～11月）

- ・ 9月おわりごろからタネが水の上に浮いてくるから、集めよう。はじめはタネの周りにゼリーのような皮がついていて水に浮くけど、じき^{すぐ}に取れて沈む。浮いているが集めやすい。
- ・ とったタネは水を入れた別の容器にしばらく入れて、ゼリーのような皮が取れたら軽く洗い、水を入れたペットボトル等に入れて冷蔵庫で保存してね。



ゼリーのような皮がついたタネ



皮のとれたタネ

後片付け

- ・ オニバスは1年で枯れてしまう。葉が枯れたら、水を抜き、枯れた株は抜いて捨てよう。枯れた株を土に混ぜてしまっても良い。
- ・ 来年もオニバスを育てたいときは、土をかき混ぜて天日干しにして乾かそう。土の状態が良くなるよ。
- ・ 取り切れなかったタネが底に沈んでいるかもしれない。水を抜いた時に探してみよう。



冬になり枯れたオニバス

注意!! オニバス・ミズアオイを捨てないで!

- ・ オニバスやミズアオイを川や池、水路などに捨てては絶対にダメ! 地域の自然に悪い影響を与えるよ!